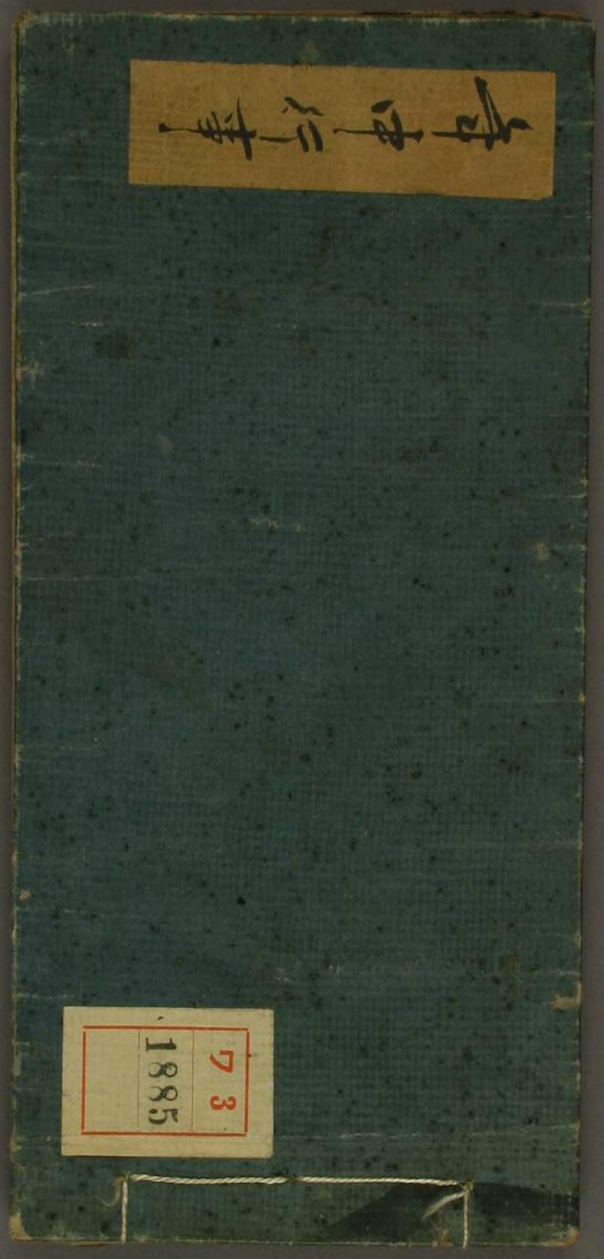
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



73
文庫
1885

新潟県立図書館蔵書

[illegible]

小山田与清識

学はゝ井の水の間にこの大人の書おのれ
たゞかゝるはかりにあらず此
学はゝ井の水の井の水は本根
元なりとおもひて古事記を
主とせはなれ出たる所也百
大人の出給ふまゝにてしかり
はをれのおもふ所にしたがひ
給ふもとゝ強ひ給はず。無理
公事根元の主張は言葉の
ゝしりて也とかゝる所大人
つゝしみたまひたるほうめき。
ときて出たちはゝくしてし
みるに。初学の人はあるまゝ
かゝれ年まれひのうゝ

凡例

一此書は公事根元をもとゝして法
令よりもわたくしはしらせべき
こゝろざしなれども初学の
ためかれば[illegible]ハやゝくゞ
一流法のあらましハかしやの[illegible]
ゞゝくゞゝまたてゆゝゝゝの
されば流あやまちもまたしてきれ
ハ信くかゝりつけたゝ
一氷板板ハ公事根元ハ元日
あの條ゝ入ゝ年行事
亮令ハ別よ[illegible]
ゞいハ見あゝゝ方ゝ流て
一あの内ゝ二度ゝ事ハ後の
ハまゝ[illegible]ゞ
ゝ[illegible]
亮令ゝ[illegible]
乃ゝ[illegible]
のゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
ゞゝゝ

一公卿殿の方ばかりにてくたくたとなりぬ。
かくなんぞ古人のまねびてかの世
のへいたるものせたるなりけるとぞ。
をさ〳〵うれしおのれめくもゆゑ一つ子
たちのそれのそこにあるまでもかは
をこがましくおぼえしかのつぶやき事
歌ども集よのめおぼえ。
一しの人はなほふかくはいりてと撰
だむよりはやもきこゆるはかなく往。
うしなはいとびつくゆまもくびし
このせたまふれもそこのねるる乃
たちんのこかれぐ。

月録

正月

四方拜 三才 御藥 一ウ
御節供 三才 朝賀 二才
小朝參 三才 元日節會 三才
氷柱 四ウ 腹赤贄 四ウ
内侍所御供 三才 若水 五ウ
若菜 三才 子日遊 六ウ
御杖 三才 二十八日大饗 七ウ
朔覲行幸 七ウ 陰時雨 八才
視告朔 八ウ 御國忌 八ウ
叙位 九才 白馬節會 九ウ
御齋會 十ウ 直言院修法 十ウ
大元帥法 十ウ 女叙位 十才
女官禄 十ウ 縣召除目 十ウ
御齋會内論義 十ウ 御斎 十一ウ
御薪 十三才 踏歌節會 十三才
射礼 十四才 賭弓 十四ウ
殿上賭弓 十四ウ 仁寿殿觀音供 十五才
内宴 十五才 國忌 十五ウ
神祇官御祓物 十五ウ 外記政始 十六才
吉書奏 十六才 七瀬御祓 十六ウ

大炊御門祭　十七オ　代尼四祭　十七オ

二月

糊奠　十七オ　春日祭　十七ウ

厩島祭　十八ウ　平岡祭　十八ウ

率川祭　十八ウ　園韓神祭　十九オ

大原野祭　十九オ　祈年祭　十九ウ

列見　廿オ　北野四月　廿ウ

祈年穀奉幣　廿ウ　臨時仁王会　廿オ

位禄定　廿オ　季御読経　廿オ

三月

御燈　廿ウ　由の御禊　廿ウ

曲水宴　廿オ　巳の日の祓　廿オ

系図等最勝講　廿オ　石清臨時祭　廿三オ

花鎮祭　廿四オ　京官除目　廿四ウ

東大寺授戒　廿四ウ

四月

齋院の禊　廿四ウ　更衣　廿オ

孟夏旬　廿五ウ　貢氷　廿六オ

大神祭　廿六オ　稲荷祭　廿六ウ

山科祭　廿六ウ　平野祭　廿七オ

松尾祭　廿七ウ　北野祭　廿七ウ

當麻祭　廿七ウ　當宗祭　廿七ウ

梅宮祭　廿七ウ　廣瀬龍田祭　廿八オ

擬階奏　廿八ウ　灌佛　廿八ウ

伊勢神宮祭　廿九ウ　日吉祭　廿九ウ

賀茂国祭　廿九ウ　園賀茂祭　廿九ウ

賀茂祭　卅オ　中山祭　卅ウ

吉田祭　卅オ　駒宰　卅オ

新日吉祭　卅ウ　三枝祭　卅ウ

五月

菖蒲　卅ウ　五月節会　卅オ

端午節　卅ウ　左近馬場騎射　卅ウ

競馬　卅ウ　有無日　卅オ

宮殿　卅三ウ　賑給　卅三ウ

嚴勝講　卅四オ

著鈦改　卅四オ

六月

氷室　卅四オ　忌火御飯　卅四オ

醴酒　卅四ウ　鑒真月会　卅四ウ

御體御卜　卅四ウ　月次祭　卅四ウ

神今食　卅五オ　解斎御粥　卅五オ

祇園御霊会　卅六オ　因幡時祭　卅六ウ

節折　卅六ウ　大祓　卅七オ

鎮火祭　卅七ウ　道饗祭　卅七ウ

施米　卅七ウ　雷鳴陣　卅八オ

七月

廣瀬龍田祭　四オ　旨御節供　四オ
乞巧奠　四オ　文殊會　四九ウ
盂蘭盆　四九ウ　相撲　四九ウ
初穂穀幣　四オ　仁王會　四ウ

八月

八朔風俗　四ウ　釋奠　四ウ
北野祭　四オ　宮考　四オ
小宮考　四ウ　石清水放生會　四ウ
駒牽　四オ　季御讀經　四ウ

九月

御燈　四ウ　不堪田奏　四ウ
重陽宴　四オ　例幣　四ウ
撰出　四ウ

十月

孟冬旬　四オ　孫子餅　四ウ
射場始　四ウ　殘菊宴　四オ
興福寺法花會　四オ　維摩會　四オ
大粮申文　四ウ　初雪見參　四ウ
雪山　四ウ

十一月

御號物　四オ　忌火御飯　四オ

御暦奏　四オ　初見參至　四ウ
相嘗祭　四ウ　宗像祭　四ウ
山科祭　四ウ　平野祭　四ウ
春日祭　四ウ　杜本祭　四ウ
當麻祭　四ウ　丰川祭　四ウ
梅宮祭　四オ　當宗祭　四オ
中山祭　四オ　松尾祭　四オ
大原野祭　四オ　國樟神祭　四オ
丑節　四オ　殿上淵酔　四オ
童女御覽　四オ　鎮魂祭　四オ
新嘗會　四ウ　豊明節會　四オ
吉田祭　四ウ　日吉祭　四ウ
園韓神祭　四ウ　賀茂臨時祭　四ウ

十二月

忌火御飯　五十ウ　大神祭　五十ウ
国忌　五十ウ　御體ト奏　五十ウ
月次祭　五十ウ　神今食　五十ウ
佛名　五十ウ　御髮上　五ウ
立太平童子　五ウ　荷前　五オ
著袴改　五ウ　内侍宣神樂　五ウ
御號物　五ウ　大祓　五ウ
追儺　五ウ

年中行事

関宮永好著

正月

元日

元日宮の内の屠蘇と唱へ天地四方拝ひ宮
中にて屠蘇を給ひて御膳の上に陳ぬ
拝礼の初めなり潔斎の本階御のお
ほ内にて行はせらるゝ日本の机
上に初めて屠蘇を飲て地と拝
まづ小国の天と拝ず南方小
国を西方と拝ず北方小
貪狼星丑寅巳未酉戌禄存星
印閣文曲星辰申鷹貞星巳未武曲
星午申破軍星又巳未宮殿ハ
小国の天と拝ず坤小国
て地と拝ず巳方
氏神竜神先聖先師墳墓一切
墓と拝ず南北の
陳
大臣家などのみ
年
きぐるまの星と唱へる中ごろ

元日

○供御薬

屠蘇白散といふてそれをの
うえにはさみの色はれば衣と
ふくめて清涼殿の色はれば衣と
陰陽の典侍典薬頭女房
とまこれはさみを
は右方とい
は厨子所のは
れ薬と供ぶ
るまのまむ
と薬はいと
沒ふとも
ひて
きこ
あ
ぶ
ぶ
ぶ
元日
元日
元日

大臣つぼの左右さうらうなれば。大納言動
むらさきづめの袍とうこしむれば。
ひきて。つまとる。御所。
一ぢ紫宸殿。紫宸殿。
地とかくれば。帳の命婦。酒子。
公事。根元。
ゑは。語。
しゐ。図書。
奏陽。二人。
の。陽。
相。次。舞。
宮。
いま。
中宮内侍
よ。
同
さ。
ふ。
同
ま。
年
の。
年
の。

万代の。
ふ。
ま。
元日
○小朝拝
敬。元日。
人。
天。
せ。
や。
い。
風
神。
年
ま。
御。
子。
の。
○元日節会
宮。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元日

○水撥

元日

○腰[illegible]

元日

元日

元日

おくもちゐ、但天照大神宮孫と崇け
給ひし光仁神宮ハ日別所と伝
ゆゑ、それを祭ること
大神宮ハ内宮ハ伊勢の祭
うはいを祭る也内宮ハ村元
今の天皇の父上ハ日の中ゝゝ燒
そんぜを祭りハ或ハ社後南坂の
根元かとおくもちゐ野ゝ園
が神伊勢ゝ祭りとハ内宮ハ
内宮ハ神元ハ
ゝ女房神ゝけく伝ハ
ゝ後しもるもの
の丸ゝ面ハ流ハ
帰ハ又ハ
ゝ伊勢の社ゝ内宮ハ
の
ゝ
ゝ

○供ハ
ハ
ハ

といひて、かゝるものを、こハ子日人にのゝ。
七日と申すしるしとて、倒て、因て云尽
のせ七種の菜とたきて、云ことゝ云ふ。
之歌たゞのるこゝ。ふるとのるゝ。ゆ
やさ[illegible]七種かゞ。ゆくはしいれて。
元菁斗遊[illegible]れ給食はしわの方ひこ
ゆくこゝこゝにして写れたくこ。写れ九七曜
九曜。廿八宿。三星の祭也といふこ。陰
陽師。家々門口。かゞくいひをきゝ。朱
雀。かゞくこハ玄中記。ゆくの。東南有桃
都山上有大桃樹。有天鶏。日初出照此樹鶏
即鳴。天下鶏皆隨鳴。あれば。赤鶏の
ゆくこゝ。おゞゆ。され。こゝ。どんかよ
ゆかれば。ゆくゆ。ふ。ふ。ゆ。ただゆうど
ハ。ゆゞ。ゆかの。鶏の。ゆくゆ。さて。日か
のゆくゆゞ。ゆくゆゞ。ゆくゆ。ゆくゆ。ゆくゆ。
おきゆて。のゞ。ゆくゆゞ。ゆくゆ。ゆくゆ。
いゆゆ。ゆくゆ。ゆくゆ。

ゆくゆのゆハゞれのゆゆゆ

年中行事

[illegible]

[illegible]

良本年保巳里才桃才梅才椿才

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

年

[illegible]

○御[illegible]

[illegible]

[illegible]

○叙位

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の者也。藤氏ハ孫と者し。源氏ハ弟也。源氏ハ勢多法の者
法の子也と者し。橘氏ハ兄也の者也。内と外
也と者し。橘氏ハ兄也。藤氏ハ弟也。又ハ内と外
位も内位と又ハ外位也。外位ハ位下也。位
位ハ位下ハ位上也。一般ハ位下也。位
上ハ位上也。

○白馬節會　七月

此節ハ元日の節のごとし。唐の紙背
よりもちゆる。はるまつ。ぐわと。内弁ハ内
日をもて。外日ハ右近の馬ハ。左近ハ
ゑ。ハ中陣ハ。外村の上ハ。おもてこれ
ーとハ。地ーの物ハ。ゆ。ゆ。氏
名ハ。大力ハ。ゆ。ゆ。ゆ

大法ようすまさのおとうとなりと
いゆのハ子のわくらわ　伝古

八日

○ひがしの
大枝殿こそ八日ハ十四日まで百のち嶽
勝寺ようの修ぜらるゝなり。大成元年九月
六月金光明経ようの宮事一年ハ法月
ゑて修ぜらるゝ。そやさくじゃらぐき。
まゝ大まえ元年十月ハ枝殿こて海ぢら
る。枝成元年近廣二十てまよわ年くの
とふかるめる来べしと

同日

○まこ宮護摩法
後七日御修法

○金剛界胎
唐の内道場に准じて法ようの者ハ
ゑて用ゐ元ようの法ハ
ちりゑつハ中ゑと主ねんあるなりんや　ゑ浪
ほのちりのゝようのいろりとそく

同日

○大元帥法
法終結
宮人と中れ衣とゆるして壇ゆるとおくゆ出衣
第六ゆ御のつぶて修ゆ。ちりゑ九日

れ衣と迎えしに大元帥法しきゝ法ゆ
のやうとゝもゆ日ゆ世法ハ桑栖の
者ハ法ようきこと

八日

○女官叙位

是ハ女の位ど叙せらるゝ
ゆ。ちゑ叙位ゆ。大臣ハ
時きかしひて申文ゆ。
ものゑ。大臣ハ女官
水女官ハ女官
ハ時ハ閑ゆ主水女官
の位ゆ叙ひぎ時ハ
たくゆ。十来の女官
て叙爵とゆ。叙爵ゆ
ようゆ。ゆ十ものゆ
三十ものゆ。三十ものゆ
れゆ。ものゆ
位ゆ中也ものゆ
ゆ。ゆ
おく。ゆ
ハ。ゆ
被官ゆ。ゆ
て供ゆ

主殿女官
ハ女官
ハ女官
ハ

子八天子の守といふ化ぞ。死れば、諸ま
うちきぬのもすそ。死れの名と紀氏の墓
女ちくらかれば。たてまつりて。今まへ。此
隅いちくらかたてまつりて。たかしび。古く
阿闍梨祐親友。朱そひひれば。後まへ
化和上の方ぶつと用る。東望鐘
八ホ嬉ふかくかくあ
年
去るよあ去まわくるのんとて　為邦
ふかめぐくとさおおすぐ
さげつるぢきあるいのふて。春顔
くぶうけきめとくくる
○位女御　八日
参議藤原実方朝臣の関白の
中の殿。ある。ある。位二延
御八宅。ハ王ろ廿九人。多。言ハ
十二人。完。ふ。孫。孫。女。孫
おそやうくくしづ口位ろ
法人ハれきめとやらむ
ふきめぐくのあのくいり　朝
○縁ぎ除目　十一日
去の除目ハ。ハ。ハ。
此除目ハ外官とも。行ぜらる。外官

とハ京の外の官也。国の守。元位ハ。
その上也。ハ。ハ。
ふ。ハ。ハ。
尻。ハ。ハ。
官奏。叙。除目。ハ。
国。名国。智。
いふ。ハ。ハ。
位。ハ。ハ。
ざる。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。
ら。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。
位。ハ。ハ。
国。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。
ハ

ゆゑに取り[illegible]いはあるべし

○[illegible]義　十日

十日八坐[illegible]の法[illegible]の日[illegible]内[illegible]法
[illegible]の時[illegible]
[illegible]海
[illegible]

○[illegible]　十五日

正月十五日[illegible]
[illegible]
[illegible]

○國忌　廿五日

名所旧跡の無所。堀川院の女院藤子の崩
御忌。これに仕える村上宮國母の同忌
なり。ゆえに仕えて出家の日のとくじゆうる。東
寺中くに。同じこの日八幡の廣勢力あれば。
廣勢とは二度の別し給ひ給ひ。法皇と
とむらひ。ものとの廣勢とは。暇なくして
ものもの。この日は法皇の御所の中にて法皇と
なるべきなり。廣勢廣勢とも来ぬ
時。ことにて。一日二日三日かどまつ。代日お
ゐて世界をもとめ。ものの澤をもとめ
べし。法皇の氏寺なれば。
たくさんの氏人。祝ふ。　永好
世の人々はけさの氏人のつとめ

○神武天皇祭　毎日

いつの頃八月のはじめ。ひまあるべきに。人祝ま
位ならずして。おのの代ものもの。
ぶ。八幡。法皇の氏寺。時よりあくべ。
られ。毎日のまつり。

忘れたる。八七月の菜。夢の夕。新しく
かれ。ふし。清。宇。月。日。の。宮。花。年
のこころ。ものもの。ものもの。
ゆのせくくしいなり。
四季物語　ものの。あつ。
かくくくれ。代。
つくくくもも。ものの。
あるくくくのもし。　知勝

○祝詞　同日

もし八百宮。宮。新。
十。納。
料一百八十。国。洗料七十三。
料一百八十。御水料二百。中。
七百八十。諸料二百。賢。五
百。かれかくく五穀の国。
年
百。のくくのはくさの。新。　泉中
くくのくくもくぎ。
くくくの。新。のけ。
よのふぎ。のくじ。　十六日

○法勝寺　十六日

法勝寺。二度。十六日。八四。法。六。十六日。八
女。法。寺。かれ。男。法。六。八。中。六。年。作。行

くれば。四月十五日。二日。八月の時なれば。三月の節句。女のぞくうちまつりてゆめ
は。祝ひ事はなくて。年をまちもやすぐせ
られ。かふ。法師。二のとしつもりを。知て。年へ
ぬれども。武士。男。女。四月。六月。九月。
波はなくて。男女。つとなく。時雨。法
師。のみ。ことにて。おのれ。ものを。
人。ことなれば。四月。六月。九月。
聖武の御代。法師。なく。禄を。仁家。礼
多信。一わらく。礼無。おうて。稼つ。
——やしく。仁。絶。禄。礼。後。
帝。信。聖。帝。信。後。中。仏。
信。まく。元。年。法。師。高。
小。聖。武。禄。礼。
いく。

あくまつ。きの。四月。小。
は。二。五。八。月。
春。の。句。おく。ふ。
ふ。せ。と。かね。て。
ふ。ま。く。近。唐。十。
う。ひ。く。ま。凡。
別。る。白。馬。豊。明。八。
ち。ま。大。臣。元。日。法。
ま。ま。小。力。禄。せ。と。行。

年中行事

ふ。也。ぬ。長。ま。ま。ま。ま。ま。法。ま。ま。ま。ま。ま

○射弓　日次安定

○殿上射弓

殿上弓場殿ノ除シ始ヒテ弓ハ張ル
ものゝ。堋ノ弩キ。的ノ方ノ。的ノ方ノ。左右射ル
朱ノ。左ノ。ノ。ノ。

[illegible]

[illegible]

○七草の粥　毎日

七草の粥後[illegible]の後の粥後[illegible]毎日の[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

○春日宮

二月十日に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

白雨

[illegible]

[illegible]

○康島ホ　上巳日

○平[illegible]ホ　同

[illegible]

○平川ホ　上酉日

平川ホ[illegible]

[illegible]

永保

○國弁神社ホ　上亥日

[illegible]

○大原ホ　上子日

大原社の社、山城[illegible]

二月十五日[illegible]

[illegible]

[illegible]

年

[illegible]

○初春の歌

[illegible]

康穀

[illegible]

年

[illegible]

○初見

[illegible]

土日

[illegible]

○小空山三日　廿五日

二月廿五日ハ菅大臣大宰ニ左遷ニ給ヒシ日。

○初午　穀午祭　十日

二月十日あり。十日とくひてくらふ。

廿二社ハ穀ヲ初ムルトテ。ハシメテ水ヲ流シ。ハシメテ稲ヲ植ル。

○時行　十日

十日ハ時行ノ日。

○伊勢御祭　十日

十日ハ伊勢ノ御祭。

○伊勢御祭　十日

十日ハ伊勢ノ御祭。

○春日祭　十日

十日ハ春日ノ祭。

○春日祭　十日

十日ハ春日ノ祭。

いつ系として伝ふ系ふたつ。ひまえ
母巳月ハ日ハ[illegible]。貞観乃比
ハ毎年ハ[illegible]。
[illegible]
[illegible]

永好

三月

○れいし
○由はぎ

三月

そも〻農家ハ桃とて[illegible]せ[illegible]。ちかふ山雪
[illegible]ハ[illegible]。
供ぜられ[illegible]。百[illegible]
[illegible]
[illegible]

被して人流に流のみてはいらしたら
ようかちこそふせり。四日とくそのの
俗子尼ふさて。己といてるがこのこ
のの事かるしとも。就ようの俗方と
用ちるようかわるべかるこのもる
アけなば。言ようかるる。なほとこと
よづこと。こまてどやうみしむ
ご法ばかん。

方 かくの母うる浮ぶて拝ぶてふ 宮殿
くつぶてこぶこうぶてせよ

新続古 めぐりけり六位そのくくの 元忠
かくるぶれくるのさうづき

六月 行ちしばばくもくぬえさくるもてらむ 長家

新六 戸くもくもくはくしくの花 為家
こぶれふくなぶけさうづき

同 みちせの枝うやぶれをとて 信実
かくるのほものむのさびき

あくの門いてのくくのせるやや 枝重
なれてむさしもの作づき

なぶれくる花きいてこのかも 宮内
みくるめぶくれのくくびき

ふくのはるのうぶさうぶさうぶやや 長房
なぶれてくのなめーぬらむ

あくいくるくしくもれさくふの 長樹
もものくやぶはやもくしのふ

○宗門寺蔵勝俗七日

結わてはてももゆもちゆ。来ばるくて毎
年七箇日。宮殿ばて俗と俗ぜくぶ寺
ば。天武てはのは乳。

○清水観音 中中日

まづ万のはよちち。ちなの義くと義くと
ゆきぐむ。中の辰れ日減ぶは。牧乃
孫庵こば侍ずまは。
しふくて。くのくは楢なぐく俗ふ。
日位五位の義くの。紙のかくふ地下の俗
ば。治ふ年中行事の侍ものくくう
乃ぐくくば年名くうびて。盛と
ちて花形とくくて。流口の戸くて舞
くくまくん。和合くみ出て。仏の孝の下
出て件とおてかぐくくくん。仁者の愛の
廊のはちちくくはるくれ列をくん。陰
俗名。長俗くくくと来のくべ。和曹庵七
かくくかく

求めさぶらひ。所を帝はしろしめさるきの言葉を
ならひ。毎くふひとりて。たまはり給へ。
うくひて。毎年ごとにてうとんべ。
この武樂ばかりもれざるべし。南の庭後に。
はくじゆもて丞あべ。
寒年の行く。使舞くつ。たまへ下。
ざのうたて。仕奉の冠ぶ。敷文
八乙教くて。作行がくけのすると。
新がけ。ふ五年きねもて所
づのそうむのうのたまつと所
わつて。ぬ。はかの朱杯を。
ふ日ちなる。諸文の時はのうと
しれ報賽のくふくじめられるを
でまくこのふの毎のすなれ
ろて。孫て。百よのまやうと
ぬ。ふ日還りの後ふ。ゆ弟ふ。めさべ
して。ふ場勢して。秘蜜稼などたぶ。
けあと南ふ。いす。
新勅
たまやびのうぶんさくらハ
後拾
れるやりこのてのいくあ
り末ふくつまう。やく

続千
九年のうれぶぎのさくふ
くれむくの為ハ主ル。
新拾
のきのさくかぎてふふ文
神ふつふるのの〜へびや
堀百
ふのやれさうぶまりぶ
うぎのまれまうてくて礼
同
日ふうぎのふまちれば
ふまこの家ちうくろふ
同
たつぼのかきれがけかろ
わがふてものわつやまや
同
ふろ代のどさき新まくふ
かれなくやろ居ふ
白川七百
ふりるの神ふれうさくふ
ものうぶハ花でくれ
ふれくのぎのふでなまふる
くたのれのむ〜ぎし

弼
後拾
岩佐
雅光
春海

○花祭

もい大神楽井の二ふとりまつ
ちつくふ法ハ後神ふ
るれかくふれまつむと
る色神花ふてりる。
ゆふてみる法その物つ惟

社のくらいとりどりなるべくん

○新宮除目

社の除目といひて

七月二日に行はるる社の除目とぎこと
なれば。はじめ社の除目といひて。年ごろ
おほやけの御司と任ぜらるる者ども
あるといへども。既にその位にあたる人除
目ならねば。たゞ式部の省の官
の奏なるべきにわめるる。一年に二度
いとまなし。

きーぞくの授のなれる。
めぐりの年のはじめ。

○大学授戒　七日

古へは毎月十五日。ほとんど二度。
二月七日と拝ていはる。春秋二度。
年ごとに。大学寮にて戒師を立てて。
とりて菩薩戒とうけたまはる。
の授戒なるべしとぞ。

二月

○齋院出後　中午日

はじめ斎院の御後。あるいは。
ことにはいまだ。毎月の出後
とぞ。

出後中に勅使たち。あるいは
御使ども。行ふ時の出後とわるの出後
とあり。系図に。勅使とし。
二度の出後。ばかりの四度なり。
なりけんとぞ。

大中納言。
右口。
やまと。
らるる。
夜の出後。
こゝにはやはりとたゞの林のあ
くるまつりごとの。

○更衣　卯日

二月中の。
たむ。
ら。
かやうに。
きと。
しの。
の夜。
なし。

掃部寮。
出後。
出後。
はじめ。
女房の。
小三。

○ 二十六

いろかな

たゝのゝぐるゝ庭てゝ改めて
はゝ降くゝゆるゝくゝるる　永好

○盂蘭盆　　新日

七月八日の夕方より盆の設をはじめ家ごとに
洗てたび洗とゆ凡旬くゝ新
盆ゝ即位の後初て所作ふとゝ
樣旬ゝらひ十月廿日ゝ
いくゝと初旦旬ゝ
亟旬ゝ亟亟旬ゝ亟亟旬ゝ二亟旬ゝ
獄の所内侍所と入る板笠とゝ
て毎月の南北くゝ
のぴれゝて
ゝ扇ゝ
ゝふゝ
て亟ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]福の神を[illegible]たまはれ神まかんお
[illegible]くしをふ。[illegible]
[illegible]

年
わが天の氏代やさ[illegible]
やわがれるあまつ[illegible]
神ぎ[illegible]
[illegible]
[illegible]

年

○松尾宮

年

○梅宮

○南殿

○松尾宮

年

○廣瀬・龍田

年

○二十八

あらためらる。伏ハ六月三日より八十日ばかり
せたる後ニ用ゆるなり。凡ものの種を
のぞきて数の多かるをとるなり。
てもむさぶるに月日ハ凡ぬてはふとるなる。
風神ハ級長津彦神也。
えぶ代ハ何ときなく(ゆ)あるべき
うけひ神のこころなるべし　信睦

○擬階奏　七月

月ハ二月三月之の時ハ成選短籍と式
ゑの二者ハ共ニ式部ハ大内裏ハ大学寮ハ
色別之巡りの中ハ式部ハ短籍と云ハ
てゆきハ短籍と云ハ
品ハ式部別之の条ニ合ハベし

○灌仏　八日

神事ハ五月ハ行ハれ灌仏ハ行ハれ
ハ式部ハ毎年の毎月の
うたれて月の出ハ撤して
かぐとして指が近きの
うて流すなり。
机をえ紙にて
ハつまりて
絶ゆるなり。

かぐを敷てのうへに入て
のふ(ゆ)ハ
うあるハ
机ハ
ゑハ紙
義人
行の
行ハ
字用
百文
二百文
保元
信ハ
信ハ
信ハ

[illegible]人の[illegible]おもひの[illegible]
はぐ[illegible]ろの淺本ら　春海

[illegible]の[illegible]と[illegible]ゝ月の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　自寛

○伊勢神宮のこと　吉日

伊勢神宮のあるじ神職[illegible]いまきよ[illegible]
[illegible]て[illegible]ゝ河[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ともて
神[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ麻[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

祥中行事

○三十一

うゑてちるのまろうしうるふ　美孝
いそのかいさゝなのゝらん

○新日吉祭

海月

二条院水屋元年十月十五日　後日川院
日吉の山の新宮ふうはゝ
しれ新日吉といつて　無俗二月の香
くどんてゝ

○三枝祭

三枝祭は年ごとのすゑ　三枝のまつり
て　流れるようぐるゆふ　三枝の
昭法院　烏帽子　ひと　測　の
せ　ふつ　ハ　と　仕　章
さ　ゆ　ゝ　ば　三枝の
ゝ　や　て　但　祭　先　月
ゝ　の　ゝ　ハ　ゝ
年
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
汁　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

五月

○菖蒲

三日

三条有あやめの輿　あやめの根の
西ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ふいやめとつ　ひまみ　百日の法　高蒲の蔓　蔓よ　ぎるもの　ま
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

○五月五日

武徳殿　宴　出　宴　今　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

櫃就脳の七條いつたの伝奏べ。
新あつさろまゆ。けあびまてつび 盛下
いやのれさくりてる。
同
ゆかる夜のされいるくて ゆ家
さ月のひし知ろくつて
年
きたるかのるやあまま 仰受
ちの月のつるる行て月りむ
こるかるこるやもてるる 子盛
ふるたりさりどが有る
るしむるるるるるれ 米子
ゆのりりしもくるるる

○鶯ごえ

くるる秋くるくるす。高倉氏の息子の九
るるいひ原原ごるるるいる。

○左ごとる鶯ごえ待

三月ゆ左とのさるる伝ゆるるひ原は右道
の是ゆる伝ゆわ。是ゆる伝とるるるる合
ゆるる中て伝ふ下ゆへるわ。ゆるる先を
のるゆる伝。ゆ月ゆるをのるゆる紙なわる
伝ゆるのゆ会の九て伝ゆ鶯ごえ
賀りゆるゆ。るるる左ゆとるとのる場
のゆるるの月ゆる。月とるとのる場

のゆるるの月ゆるるるゆ。ゆ初ゆ祝ろ
ゆるとゆるるゆ。ゆたとるるゆ。ゆ
るるゆ。ゆるるゆ。ゆ月の月ゆ。

○ごえ待

くるる秋くるくるす。高倉氏の息子の九
るるいひ原原ごるるるいる。

○左ごとる鶯ごえ待

三月ゆ左とのさるる伝ゆるるひ原は右道
の是ゆる伝ゆわ。是ゆる伝とるるるる合
ゆるる中て伝ふ下ゆへるわ。ゆるる先を
のるゆる伝。ゆ月ゆるをのるゆる紙なわる
伝ゆるのゆ会の九て伝ゆ鶯ごえ
賀りゆるゆ。るるる左ゆとるとのる場
のゆるるの月ゆる。月とるとのる場

あれば伝て聖あり。さてあるたーのりと
ハヤカち。

○最勝講

かねて日次をえらる。法大寺の伝の中
ゑ頂学と撰て沙弟海師・隆尤さは
ゑ頂学と撰て沙弟海師・隆尤さは
ゑ頂学と撰て沙弟海師・隆尤さは

○借豊酒

一夜借りの酒ゆゑ一夜酒といふ。今の世のわか酒なり。けふ七月晦日まで。造酒司より毎日献ぜ。無礼なるのれ代ちくどまれりとぞ。

いと長いなぞ。ちくどまれりとの意。

○近衛殿の月見

八月十五日

信尋公の歌。

○初後の心あり。

十日

○はぎ

神祇官の官人。初日よりあだ宿ごもりして。内侍ふてうちまゐらせくまゐりて。内侍ふつきてまゐり。そこいもの仰せ事あり。

事よりはじめてまゐらせ。四絃ばかりぐそ。

○月次祭

十五日

七月十五日の月次祭。毎月の祭。六月ばかりの祭。

神祇官の官人。神祇官の官人の月次祭。

の掃部寮。掃部寮の月次祭。

三月十五日。神祇官の官人。

祝詞。祝の年。

くらの座下の薦の敷。

月次祭。

○神今食

十五日

中神事。月次祭。

神祇官。

月次祭。

月次祭。

月次祭。

忌の日。

月次祭。

月次祭。

月次祭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て、業の出仕をなさるる。氏社奉幣の中使にくだされ、ぼんぼんハいくと出けさいばんでるる。

ふやぶ作りたびたびいくの永好
くさの作りやりゆめくくくん

十六日

○国陽時ふ

れ祓ながらの後ちくくまれぬふこ間。使ちえ位ながくしたまはるなる宮人命ありあるの大法ん
ちうりとわれちくぶ。清馬。勅宣ながれる。
国獻院(上皇)三日のちの花のこつふ。
諸神奉幣
社殿のやくくれさくくつわぢ
えぶふくせハうくくくくくくしむる
ちのちれ祈り式く。神代くえぶハ坂と、
の祇宴をかち。
ふくぶぶやくくれさくのそうま
くやくハ作のくくつちくくつ　直行

海日

○節折

毎日の祝れ祓ちくるる。あくせる。ぶくせ。
の出装束ともくくハ出殿の叶の出抜くく。
兼好和好の出抜ど好。紙帝の出ちど。二ちが
れ毎月ちくくは左とくくば後の左のめ。
祝ちくる祓ちくくくくくくくしてどりの好ハ法と。

度ふうる家ちくくくくくくく

きさらぎまわりてもとのごとくはるの
年
文川の座のためぶしつかまつる
ものは、そのこんぎんにて
一七の夜てあつまりとりづさ
らをつきねりてはるをいはふ　与叔

海日

○大祓ふつ

卜部氏の人々とゝのへて、ひとなの江乃隅
にてあめつちのかみたちをまつりて
祓をなす。夜明ぬる。

北辰のごとの一ぶしもかぐつちれ　文雄
おゝびつしとうくつちう

月日

○酒屋食家

和泉堺。摂津堺。大枝堺。山崎堺。の江れ、
ゆくゝ朝廷家の官人ひとりまてきとりふ。
疫神と称ふ人たちゝじて宿をもうせわ。
のわとゝしゝみさゝ紙大臣宴まべ角
宴のふれて。

ゝゝやゝこゝはゆのゝるかたゝもちゝて
ものゝれゝるふこゝろのゝくゝよ　日善

○節米

東山。西山。北山。などの山ものはなびくふ。
為院ゝゝと称ふゝ。東ハ白川寺。西ハ
たゝ東のてゝ賀。ゆゝたゝそのてゝ場ゝてたゝば。
ゝゝなゝつきて。人数の効ゝまゝべ。

年
ゝ月のゝふもゝ重ゝ
ゝゝぶゝゝゝの状のゝゝゝ　ちも

世ゝ於てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　春オ
めゝゝのゝゝハ於ゝゝゝゝゝゝゝ
東の寺ハ人ゝれけゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝふハゝゝゝゝゝてゝゝゝゝ　寅光

○雷鳴る陣

雷の鳴ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

病を除くにてそなへられる。カシン幸
氏の子孫なるよしなる中の流ハ
素餅ハむぎこなにてまるまるまの粉をねり
今年ハ米粉にて来年の生きうつして。蹴のやうに
往ぢたる病。今の素麺ハしに意作なるべ
はじ。一ほめ。ヒ。ハ也。

七月のそなへ物ハ
なすびとうりゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。永好

○乞巧奠　七日

棚機ぶ。ハ。

乞巧奠の事ハ唐の玄宗の時。ハ。
ハ術を立て。牽牛織女の二星を
色。この物と。ちなみ。牽牛の
なて。秋。ハ。ハ。ハ。
又ハ。ハ。ハ。ハ。
うつ。織機のはた。ハ。
指。七月。ハ。ハ。
供具。ハ。ハ。
のされ。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。ハ。
つ。ハ。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。ハ。
ハ

○文殊会　八日

東寺西ものそひらに仁和寺の
ものたちの参詣そひける。

○盂蘭盆　十五日

内裏にて仏と御堂にのあるこ
こ貴賤にて参詣ものあり。初さけ
てまつる。十日初てひらる。盂蘭
盆とて諸寺にて仏の供養とて
忍ぶ。

○相撲

諸国の力士とて東国の人ども
伝の次にひらる。おのおのの次
第とて左の次第おのおの
子供ものとあり方とらてあり。

力士とて、もと郡領使、相撲使
ものとて出れ、そもそも左右
よりおのおの鼻神のこと
ときこゆ。十八日に左右十番あり。
次に物の方、九月、九日、
日のお稲の内、ものを出
ものお稲とて内へ
初めて出るものせらる。

八月、お稲出る。

○仁王会

二月、おこない

年

○八幡限供

年中行事

二月、おこない

年

○仁王会

二月の内時に仁王会のおこなはる

八月

○八幡限供

[illegible]

○[illegible]集　上十日

新葉

[illegible]

年

[illegible]

同

[illegible]

○わぶ[illegible]　十二月

[illegible]

年

[illegible]

○[illegible]考　十一月

[illegible]

二月の引こもれば。武行ゑ物の二首とを
詩のくてのこと也と。是をの引こと。
はとおもふまで。ゆゆしくと。撰ばせ給ふ。
人々とゝ。ゝびて。こもりとを考へ
ろ。宮考。きて。はくゝかゝちう
しゝ。十二月ふ。小月。考へて。たゆ八
のくを。の歯ゝそ。ひ。年本わ。

新撰

年

○小月考

十二月

家の系ゝの。

○ゑ法の教せ食

十五日

内行事ハ。ゆ。ゝ。ゝ。ゝ

同

同

同

○春より流伝

二月

年

九月

○月見

二日

年

○不堪月見

七夕

年

○重陽宴

九月八日

年

年

年

十月

○御祈

伊勢大神宮の御祈とて毎年十月に行はるる。

○擬法

○盂蘭盆

十月

○盂蘭盆

年ごろておりしおらぬれるとと
いまさらやうくくりぐわび　ね邦

○子儀　三月

内義家よりもまるとを乳倫をそはて。十
月支日儀さくくバ。病たりしいてくり
上くくしは儀く七枝の物をて出たり。大豆
小豆大角を胡麻。栗柿物ぶ。
著岡
はくりしらぶてつくみのくもち
ぶんくくはるものはつてぶ　春之

やいまのかくくゆいしぐ　玄州
みのりのもちひおくくくゆめり

○射場始　五月

まづ此月のこと。古之巡つるに場の始と
つく。面白弓場なくなるそ。出ればば
弓場ぶて射ふうこれ射場へ。
ゐるとと古之の拾くをくくぶせくまれ。

ゆぶちくくいでの拾くかくりつくて
くのくぶきこつわくくれと　ね志

神ぶ月だつのうとりつて
くつやまくいめくじゆ年ん　鶴

はるをつき　はくいつ
くつはまくかくくじめつれす　ね徑

年のゆくくのまれいもろ　信
いまはむくくともきくのぶれ　中村
みくくれ様のるれいむろふ　春元
いでかくれだくとうくく

○初茶湯　四月

九りみるとはのいつてはなまのあ。
部はかくと作酒て拾ぶ場ふ。
神今月おせくまのさうづきふ　玄州
もはあくくのはぶくくらくく

○無福　四月

九月初日ふはぶくと。百
の初図書くて拾くくくくくふ。
新古
いまくくくくの面はなくくて
いまくさくくひきくくこの蒜はら
はのくく或はの蒜かくくくさくくとと
ぶはせはるて。板はかはせはるくくふ。
はくつくて。はの蒜はくくはの蒜京氏の松家
といるとと房和とのなくれ。

○催歴会　十月

十月ふはいるくて七りのる無福るて後度

○大根申文

法華経法師品第十五

○初雪

○雪山

十一月

○比睦物

○供三天供

○比屋美

○相撲

○相撲節会

○相撲

○相撲

○相撲

相嘗祭七十二社の神々。新潟は都ゆと
まゐせ給ふ。年ごとに神祇官にて神祇官
官人ども。社司神官ゆゑ。諸国の
国の新穂とて。他れの国にて。
ゆゑよりて。諸神しおたまふ。
あひんべあひぐそ。ゆべ新宮の行事。
いつもの社のうらほのふしみの
たのしき神まつり。二月ふら

○宗像祭　上卯日
筑紫の胸形社のまつり。宗像の寺
ゆゑ。恩姫満儀法姫。市杵島姫乃
三神のまつり。

○山科祭　上巳日

○平野祭　上申日
此日ふ同じ。此時ゆゑ。祭りくる。

○賀茂祭　同日
三月ふ同じ

○松尾祭　同日
同日

○松尾祭　同日
同日

○大原野祭　中子日
二月ふ同じ。但し去年ハ上の卯日。

○園韓神祭　中丑日
三月ふ同じ。但し去年ハ上の丑日。
彩霞舎乃後ゑ行用ひ。だゑ上の丑
のりゑ。

○丑節　中丑日　丑三月ハ上の丑の日。
○殿上淵酔　宴日
○賀茂祭　卯日
○賀茂御禊
中丑日ハ五月ハ上巳。中巳の祓。
中巳ハ五月。新嘗祭。
内くゑまゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○新嘗

中行事

元神祭を食ふ。ことわり。ぬかづき拝して。焼物。外いろいろ。ぬかづき拝の。手まへ。合せて。丼の汁。ご。生の。れいさい。はて。焼物。汁。ひら。人々。もの。初物。さ。神。ちまも。行。カ。ひ。代。の。ひ。ハ。紅。嘗。ひ。ふ。ひ。物。ほ。ア。と。ハ。新。嘗。を。ト。食。の。く。て。柏。衣。日。カ。ア。ア。ア

[illegible]

新　[illegible]

同　[illegible]

年　[illegible]

○[illegible]　[illegible]　十中日

同　[illegible]

新続古　[illegible]　[illegible]

○日[illegible]　同日

同　[illegible]

○日[illegible]　同日

[illegible]

○[illegible]　[illegible]　十二月[illegible]

[illegible]

○[illegible]　[illegible]　十南日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新　[illegible]

[illegible]

新勅　[illegible]

[illegible]

続古　[illegible]

[illegible]

新　[illegible]

[illegible]

年　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

○供屠之法　一日

六月ふおり

○大れ米　三十日

ほりふれなど

○固定　三日

[illegible]

○[illegible]　十日

[illegible]

○[illegible]　十一日

○神に食　十四日

[illegible]

○[illegible]　十九日

十九日[illegible]

[illegible]

[illegible]

承和の比八月十五箇日の法会ともよ
殺生を禁ぜ世ふがら行ひとぞ
仏
くものの内ふつかわ承和八年
つるまつ〜もとすまつ〜さまつ〜ものむ
加茂
ごとうるわ〜ふ〜ふ〜ふ

宝永三年 後字法華経ハ
かくるのされのそとかいて 宗伝
多くかくべきなる文なり
みんなとなれこくこくこと 春海
いとのこと丈なり
あまふ法華経なりてなくなり
くくしのされのなどてきりて 八十

○著歌改

五月ふなあそび

○内侍所に神楽 六日

典侍八重二人小木
典侍歳を傳まわる典侍八重二人小木
丁うきくん内侍所 仍奉なりて此の
あれば月のようにりて 月八変ぬ後の
後世ける歌人宴法人 面数の西の方そ
数の経会に内侍所のうこと系 幡公よ
りて友人樽ようたく 左手の方二仍く後
たくの宴の友人後 ふる人仍曲
庭中の楽 地なるあるなる
てあるとこと人 枝方ちも
法華経 仍人 孫実
なりもの後 ものしり 次第
あるに 法華経 わ記 沙弟

こんぶ
のこと 法華経 わ記 沙弟
もの 法華経 わ記 沙弟
年末 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
の柏 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
あるが 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
ものとし 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
よりて 蔦桃 人 人 人 人 人 人 人 人 人
なりて 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
時 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
時の 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
時 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
つ 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
行 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
バ 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
時 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
新 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
同 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
こと 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

年くるのひのしるしにとて　貞世
くるもまあさうふかくれ
雪のさろくたくなる大原の
よふおそしるきかまあるびし　土淵
月の新しきごとくれのいとふ
あるがうとうとしく詠いそぐなん　七流
さ夜深くとやさきのたまふ
家おすもうふ神のさてくさ　宮花
人もごかくるまちゆふまきと　深月
まのかくるまでおびつくれ　海月

○けんしゃうがき　同日
○まくら　同日

とんだ日の向ひ
○ぎょうけ
大会人家鬼の仮まつるぶ法師業
ものもて南の名ぶつとしたこと
ハ不もまおぶ夏ど人ぶ鬼の方こと
て。姫のうあ。のえとえて狩。仮ぶつあ
今ぶ為ど。然ぶのたまけ。ぶとれ鬼
焼すまくとれ。ちあ。紙鳶。表紙ぶ
のまの初。焼ぶと。むまれ。たて。竹ぶ
出衛ぶ。ぶの疫ぶとうくおれ方

相氏ぶ月あらぶてきてくるく。楠子を
もち。仮子として二十人。絆の。帯刀と。抹額
ちくまくまくまくまく。内行のぶつまくまくる。ぶ
鬼と。ぶさんるこ。方相氏ハ。ぶく鬼と。追子ぶ
くかくとぶ本根源ぶ。鬼の。疫ぶれたるハ
。追儺ぶ。ぶ。追儺ぶ。ぶとおくハ。法会ぶわ。ぶ
ぶく。追儺ぶ。ぶとおくハ。法会ぶわ。ぶ
くまくまくれくまくれ。ぶくハ。ぶくハ。ぶ
の仮。ぶかれ。ぶいまハ。ぶの。ぶくハ。ぶ
けまくまくの。ぶかくくくくくくくくくハ。ぶ
の。ぶまくまくまくまくまくれ。ぶばつまくまくる

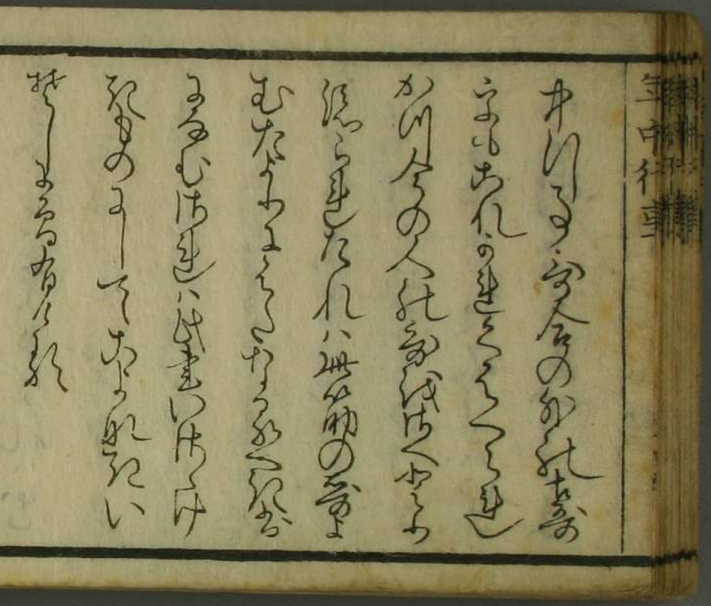
新。
るぶのぶのぶくまくのぶくまくまくまくま

茂岳

羅

永好

學中手本仮本作



間宮又左衛門著

嘉永七年二月

出雲寺文次郎
勝村治右衛門
秋田屋太郎右衛門
河内屋喜兵衛
河内屋茂兵衛
永樂屋東四郎
須原屋茂兵衛
須原屋伊八
岡田屋嘉七
山城屋佐兵衛
和泉屋金右衛門
和泉屋善兵衛
英大助

日本橋通十軒店
播磨屋勝五郎製本

年中行事

日本橋

入ルうすしら